

# 2018年度 認定こども園せんにしの丘学校評価

平成31年 3月 16日

## ■ 園の概要

当園は、千田・御幸学区地域の強い要望により1977(昭和52)年定員120名千田西保育所を御幸町に開設した。地域のニーズに応えるべき乳児保育、延長保育、一時保育、休日保育、学童保育、健康支援、そして在宅で子育てをされる家庭への支援など様々な事業を展開して来た経緯がある。2006年に園舎の全面改築を行い、更に園児の増加に伴いよりよい環境を目指して2011年には幼児棟も増設した。

現在は子ども子育て新制度により、2016(平成28)年度には幼保連携型認定こども園、「せんにしの丘」として、利用定員1号認定15名を含めた265名、0歳児から5歳児300名の教育・保育を行っている。

## ■ 本園における園評価のねらい

認定こども園に移行して3年目となり、毎年園内部での評価をしながら改善に向けて取り組んでいるが、今年度はより一層の充実や発展を計り、園評価を実施する事にした。教育・保育内容や運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、こども園として組織的・継続的な改善を図る。

### 2018年度認定こども園せんにしの丘自己評価

2018年8月25日(園長)

第三者評価管理運営編

2018年9月22日(全職員)

職員が評価シートをもとに、自分を振り返りながら自己評価を行った。

2019年1月28日(全職員)

第三者評価サービス編

全職員が自己評価を行い、その後第三者評価委員が集計し園評価を作成

2019年 月 日

学校評価アンケート(保護者会役員)

## ■ 社会福祉法人の理念

愛は生命である

愛のあるところに生命が育まれるという信念で、命が尊ばれ、「個」が「共」に育つ保育を目指し、福祉の視点を忘れず、惜しみない愛ある保育を目指します。

## ■ 福祉の基本方針

わたしたちは

笑顔で子どもたちを迎えます。

成長と安全を家庭と見守ります。

個性を尊重して平等に接します。

生きる力が育つ環境を創ります。

円滑な就学に向け連携をします。

親子が共に育つ支援を考えます。

持てる力で地域に貢献します。

## ■ 教育・保育目標

たくましい体と辛抱強い心を養う

節度ある生活習慣を身につける

思いやりのある美しい心を育てる

何事にも興味や関心をもつ

親しみをもって日常の挨拶をする

緑に囲まれた太陽の輝く下で、乳幼児が秘める豊かで大きな可能性を、自らの力でのびのびと引き出せるように、時にやさしく時に厳しく援助し、すばらしい未来を創る人間性の基礎を培う教育・保育をします。

## ■ 具体的目標・計画

### ① 教育課程・指導

- ・教育課程や年間指導計画、月案、週案、日案を作成することで、目標を明確にして共有し、子どもの実態に合わせた教育・保育をすすめている。
- ・週案や月案などを作成することより、一日の保育の流れなどを明確にする事が出来る。
- ・早朝保育担当から延長保育担当まで、一人ひとりの健康状態や伝達事項の申し送りを行い、保育がつながるように努めていく。

### ② 保健管理について

- ・内科健診、歯科検診、尿検査などの定期健診で園児の健康を把握するとともに、必要に応じて受診を勧める。
- ・園児の登園時の視診や保育中の様子に常に目を配り、日常と変わりがないか観察するとともに、異常があった時は、保護者に連絡を取り受診をすすめる。
- ・感染症が出た際は、保護者に啓発するとともに、手指の消毒や保育室の消毒を徹底し、感染拡大を防ぐ。
- ・毎年 1 度、薬剤師による水質や照度、空気など、環境の検査を行っている。

### ③ 安全管理について

- ・毎月交通安全指導、避難安全訓練を行っている。
- ・登降園時の送迎車や歩行者の誘導 をするとともに、登降園の際の安全確保の啓発
- ・電子錠による施錠
- ・業者による定期的な AED の電池残量確認。

### ④ 組織運営について

- ・衛生委員会やリーダー会など、月に 1 回または必要に合わせて開催している。
- ・月に一度所内人権研修を持ち、クラスの取り組みや園行事について話し合い、意識統一を図っている。
- ・年度当初に教職員で勤務要綱マニュアルの確認をし、個人情報の 取り扱い方や、守秘義務についても周知した。年度の途中で採用があった場合も徹底できるようにする。

### ⑤ 研修（資質向上の取組）

- ・資質向上のため園外研修への参加は積極的に行っている。キャリアアップ研修も含めて、個人の希望をきき調整している。
- ・園内研修に関してはシフト制の勤務体制ということもあり、全職員が集まることが難しく、園内研修を行えないというのが現状。 今後は、シフトや時間等を工夫し園内研修を行い、全職員が同じ意識を持っていけるようにしていきたいと思う。

### ⑥ 情報提供

- ・毎日の活動の様子を文章や写真で掲示し、毎日保護者に情報提供している。
- ・園だよりやクラスだよりなどを通して、保護者に情報を提供 している。
- ・HP を通して園内の情報を提供
- ・園だよりに記載してある、予定表により行事などを周知している。

### ⑦ 保護者・地域住民との連携

- ・保護者会役員会を中心に、行事を計画したり懇談会を行うなど、保護者との連携をとっている。
- ・参観日を利用しての三館や教諭同士の連携、子どもの交流など、小学校との連携を とっている。
- ・千田学区の行事に子どもが参加することにより、保護者も一緒に参加し、地域の行事を知る機会になっている。
- ・千田学区まちづくり推進委員の一員として活動している。

### ⑧ 子育て支援

- ・曜日毎に年齢別のサークルや地域の公園でのおでかけ保育を行っている。
- ・フジグランやイトーヨーカドーでのおでかけ保育を月 1 回行っている。
- ・相談内容に応じて、担当者が個別に対応する「子育て相談」を行っている。

### ⑨ 預かり保育

- ・就労の有無に関わらず、教育標準認定（1 号認定）の方は、幼稚園型一時預かり保育を 19:00 まで行っている。

### ⑩ 教育環境整備

- ・園庭や園舎、遊具など、危険箇所がないか定期的に点検を行っている。
- ・修繕箇所を発見した際は、園長まで直ちに報告。 その後、必要があれば業者を呼び対応。

■教育目標の達成、学年の年間目標に対する評価

○教育・保育目標

保育目標	評価
たくましい体と辛抱強い心を養う	リズム遊びやサーキット遊び、園外散歩、4・5歳児はたいそう指導やスイミングなどにも取り組み、体力づくりをしている。体のバランスや動かし方は、小さい時からの積み重ねが大切になると感じるので、体を使った様々な活動を、年齢に合わせて取り組んでいく。個人差も大きいので、個別の関わりも大切にしていこう。
節度ある生活習慣を身につける	それぞれの年齢に合わせた基本的な生活習慣を、日々の生活の中で繰り返していくなかで、子どもたちのできるものが日々増えている。その成長をしっかり認め保護者の方と共に喜びあひながら、基本的な生活習慣が身につけていこう、家庭とともに取り組んでいく。
思いやりのある美しい心を育てる	友だちとの関わりの中で思うようにいかないことも経験するなかで、自分とは違う相手の思いに気づけるよう、保育者が仲立ちになりながら繰り返し知らせている。子どもたちの思いや気持ちに寄り添い理解していくことで、情緒が安定し心の優しい子になると思う。子どもの内面を理解しながら保育を行っていききたい。
何事にも興味や関心をもつ	子どもたちが何に興味・関心を持っているのかを常に考えながら、活動や環境の中に取り入れるように心がけた。個人によって興味・関心も違うため、一人ひとりにあわせた関わりも大切にしている。子どもたちの発見や気づきに共感し取り上げることで、興味・関心が更に広がっていくよう、保育者が大切な環境として子どもたちとの関わりを大切にしている。
親しみをもって日常の挨拶をする	基本的な生活リズムを繰り返す中で、生活の中のいろいろな場面に応じた挨拶や返事を知り、すすんでできるようになってきている。まずは保育者が進んで身の回りの挨拶をしていくとともに、地域の方や来園者にも、気持ちのいい挨拶をする姿をみせていくなかで、子どもたちが自分から進んで挨拶ができるようになっていこう。

○学年の年間目標

	年間目標	評価
0歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆安全で衛生的な環境を整え、生理的欲求が満たされるようにする。</li> <li>☆保育者とのあたたかいふれあいのなかで、安心して過ごせるようにする。</li> <li>○ひとりひとりにあわせて生活リズムを整えながら、基本的な生活習慣を知らせていく。</li> <li>○自然物や玩具、身近な生活用具など、いろいろなものを見たり触ったりして積極的に興味を持ち、意欲的に探索活動をする。</li> <li>○保育者との信頼関係を土台にして、情緒の安定を図り、人やもののかかわりを広げていく。</li> </ul>	<p>成長に伴って遊びを変化させ、発達に合わせた遊びを工夫するよう心がけた。</p> <p>月齢差が大きい年齢だが、月齢に合わせて3クラスに分かれ、それぞれの月齢に合わせた生活や活動を大切に、日々の保育をすすめることができた。途中入園が多く、不安定になりやすいが、できるだけ特定の保育者が関わることで、信頼関係を気づき、安定して過ごせるよう心がけた。</p>
1歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆簡単な身の回りのことが“自分でできた”という喜びが感じられるよう、保育者がさりげなく援助する。</li> <li>○保育者の援助を受けながら、基本的な生活習慣を身につけていく。</li> <li>○保育者、友だちの模倣をしたり、食事・着脱・排泄など身のまわりのことを自分でしようとする気持ちをもつ。</li> <li>○いろいろな経験を通して、好奇心や興味・関心をもたせ、十分探索活動ができるようにする。</li> </ul>	<p>情緒の安定を図りながら、年齢に合わせた発達を促せるよう、年齢や発達に合わせた保育をすすめることができた。絵本をたくさん読んだり、屋外でたくさん遊ぶなど、子どもたちが楽しめるような内容・環境を工夫するよう心がけた。高月齢と低月齢で、それぞれの興味・関心に合わせた環境や生活を工夫し、丁寧な関わりを心がけた。</p>
2歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆安定したかかわりの中で、やりたいことや自分の気持ちが十分表現できるようにする。</li> <li>○自分でやろうとする気持ちをはぐみ、生活に必要な身の回りのこと（食事・排泄・着脱・睡眠など）が少しずつできるようにする。</li> <li>○いろいろな活動を通して保育者や友だちとかかわり、一緒にあそぶ楽しさを味わう。</li> <li>○身体を使ったあそびや表現することを楽しむ。</li> </ul>	<p>子どもたちができることがだんだん増えてくる中で、はさみ・のり・ボール遊び・なわとび・すべりだいなど、できた喜びが味わえるように保育の中に取り入れることができた。月齢によって差もみられるので、混合クラスでの活動を工夫することも必要である。</p>
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆保育者との信頼関係のもと、集団生活の心地良さを感じる。</li> <li>☆身の周りのことができるようになったことを喜び、すすんで行う。</li> <li>○友だちとかかわりの中で、相手の気持ちに気づきながら、一緒にあそぶ楽しさを味わう。</li> <li>○さまざまな活動を通して、興味や関心を広げ、さらに意欲を持って生活しようとする。</li> <li>○自分の思いを言葉やいろいろな表現で伝える。</li> </ul>	<p>行事が多くなったなかで子どもたちとしっかりふれあい、季節にあった遊びや発達にあった運動遊びを取り入れながら楽しむことができた。大きくなったことに喜びを感じ、友だちとの関わりや活動、興味も広がり、いろんなことに意欲的に取り組んでいる。</p>
4歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆安心感をもって過ごす中で、自己肯定感を育み、可能性を十分に発揮できるようにする。</li> <li>○園の生活に慣れ、見通しを持って活動をする。</li> <li>○自分の思いだけでなく、相手の思いを受けとめ考えていけるようになり集団で行動することを楽しむ。</li> <li>○生活やあそびを通して達成感を味わい、自信を持って行動する。</li> <li>○話を聞く力を身につける。</li> </ul>	<p>行事に向けての活動が多くなり、屋外遊びなど自由遊びの時間を工夫したが、活動の偏りがあった。5歳児との関わりが多くなり、一緒に活動するなかで期待を持つとともに、みんなで力をあわせて取り組む経験から、達成感や自信を味わうことができた。</p>
5歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆園生活を楽しみ、見通しを持って過ごしていく中で、基本的な生活習慣や態度を身につける。</li> <li>○友だちや保育者、地域の方との関わりの中で、社会に必要な習慣、態度を身につけ行動する。</li> <li>○自然や身近な社会事象に興味、関心を持ち、豊かな心情や好奇心、探究心を高める。</li> <li>○生活の中で言葉を使って表現する意欲や態度を育て、伝え合う大切さ、喜びを知る。</li> <li>○全身運動がなめらかになり、いろいろなあそび、活動に活発に取り組む。</li> <li>○いろいろな活動を通して、様々な表現を楽しみ、意欲的、創造的に取り組み、豊かな感性を養う。</li> </ul>	<p>年長児としての喜びを感じながら、活動することができた。それぞれの興味や意欲を大切にしながら、全体で取り組む活動では、一人ひとりの興味や集中などを考慮しながら、一人ひとりが意欲的に取り組みやり遂げることができるよう、活動の内容や援助を工夫し、友だちを意識しながら力を合わせてやり遂げる経験を重ねることができた。小学校への期待を高めながら、自分に自信をもって生活できるようにするとともに、小学校との連携をとっていく。</p>

## ■園務分掌から

### ○行事

- ・ 0歳児の発表会を、参観日でのミニ発表会にしたことはよかった。
- ・ 3未の発表会が1・2歳児のみになったことで、ゆとりがあり、駐車場の混雑もなくよかった。
- ・ 運動会とせんにしまつりの間が2週間しかなかったため、準備が慌ただしかった。準備の期間をもっとゆったりととるか、内容を少なくするなど検討が必要。
- ・ 春の3上のみフリー参観は、とてもよかった。保護者からすると、懇談会が後半に1回だけになるため、もう少し回数を増やしてほしいという意見が多い。
- ・ 0・1歳児は5月にふれあい運動会としたが、子どもたちに無理がなくよかった。お弁当を食べることで、保護者同士や職員と保護者の交流を持つ機会になった。
- ・ 2歳児のみ親子遠足にでかけたが、場所の検討が必要。→ポム・リフレッシュ公園など

### ○食育

- ・ 食育の年間指導計画にそって、月1回の食育指導で、その月の目標にあわせて子どもたちに指導している。
- ・ 衛生面に配慮しながら、クッキングの機会を増やしていきたい。

### ○誕生日会

- ・ 月ごとの担当を決め、計画的に取り組んでいる。
- ・ 保護者も一緒に楽しんでもらい、園での様子の一部を知ってもらえることはとてもいい機会になっている。
- ・ マンネリ化しないように、常に子どもたちが興味を持って楽しめるものを計画していく。
- ・ 子どもたちの年に1度の特別な一日を、大切にしていく。

### ○避難訓練

- ・ 幼児棟と本棟に分かれ、いろんな設定で訓練をすることができた。また、津波や浸水を想定した避難訓練や、休日保育での避難訓練も行った。いろんな想定やいろんな場面での避難訓練を出来る限り行っていく。
- ・ いざという時に職員が的確に避難誘導ができるように、職員の役割の意識が大切である。リーダーの職員がいなくても判断し誘導ができるよう、毎回見直ししながら職員間で意識統一をしていく。

### ○安全指導・安全点検

- ・ 月1回の安全点検を、各クラスで行っている。子どもたちの安全を第一に考え、危険な個所に気づける意識が大切である。いつ壊れたのかわからないということも多いため、職員一人ひとりの意識を高めていく。
- ・ 安全指導は、遊具の使い方や園庭で遊ぶ時のルールなどを職員間で確認し、だれでも同じように指導できるようにすることが必要である。

### ○水遊び・夏季プール

- ・ プールでの約束を知らせ、守りながら事故なく楽しく過ごすことができた。
- ・ 年々暑さが厳しくなっているので、熱中症に気を付け、安全を第一に考えてプールの回数を変えたり、実施するかどうかの判断を行うことも必要。

### ○飼育栽培

- ・ 玉ネギやじゃがいも、さつまいもなど、季節ごとに自分たちで収穫し、それを給食で味わうと言う経験が、子どもたちの食事への意欲につながっている。
- ・ プランターでの野菜栽培は、登降園の時に保護者と子どもが毎日見たり、野菜の生長を細かく見つけたりと季節を感じながら学びの場になっている。

### ○園外研修

- ・ キャリアアップ研修を含め、様々な分野の研修を全職員に案内し、興味のある研修にすすんで参加するよう全職員に啓発している。外部研修に行くのは限られてくるため、学んできたことを園内で共有したり、自身が実践することで共有したりすることを大切にしている。できるだけ全職員が研修に参加できるよう計画をくんでいく。

### ○懇談会・面談

- ・ できるだけ午睡中の時間にご協力をいただきながら、30分という設定で懇談会の時間を設定した。園と家庭の様子を伝え合う場となり、共通理解ができた。懇談を希望していない保護者と連携をとれるよう、年間の中で取り組んでいくことが必要。

### ○各クラスのコミュニケーション

- ・ 月1回の会議や毎日の昼礼の際、各クラスの個の取り組みや保護者の状況、怪我などのインシデント事例などを報告し合い、情報共有をしている。
- ・ 週案を一覧に記入することで、他のクラスの保育内容を知り、園庭や保育室の使い方をクラス同士で調整するようにしている。
- ・ 自分のクラスだけでなく全体のことを考えていけるよう、他のクラスへの気配りを大切にしていきたい。

### ○保育内容

- ・ 各クラスで、子どもの姿や季節にあわせて、計画的に様々な活動を計画し楽しんでいる。部屋や園庭も保育計画に合わせてクラス同士で話し合い調整するようにしている。
- ・ 3歳以上のクラスは、行事への取り組みに多くの時間を要している状況があり、担任も忙しいというイメージがある。
- ・ どのクラスも、子どもが主体的に遊びに取り組める環境を大切に保育をすすめていけるよう工夫する。そのためにも、園内研修をしていく必要がある。

○職員会議など

- ・毎日昼礼で、日々の出来事や行事のこと、感染症や事故・怪我の共有をしている。
- ・月に1回の所内人権研修は、リーダーが出席するような形になっているが、可能な限り短時間でもいろんな職員が参加するようにし、園内のことにみんなが共通意識をもっていけるようにしていきたい。
- ・勤務形態が多様で、常に保育があるため、全員が集まることは難しいが、必要に応じて、リーダー会議をもったり、時間を分けて全員が参加するようにするなど、これからも工夫しながら職員の意識統一を図っていく。
- ・代表者の出席なので、会議の内容を伝達することで、職員間での共有ができるよう、伝達方法を見直していく。

○施設・整備

- ・今年度は、園舎のメンテナンスの工事があり、安全を確保しながら保育をすすめた。今後もいろんなメンテナンスが必要になってくることが予想されるが、保護者への説明を事前に丁寧に行い、いろんなことを想定して対処しながら、安全に保育をすすめていくことができるようにしていきたい。

○園内研修

- ・1年に1度は、全職員が対象の研修をもつようにしているが、休日保育や延長保育があり、全員は難しい。
- ・園外研修に行くことも限られているため、園に講師を招いたり、研修で受けたことを園内で研修する方法で、園内研修を設定していく。それでも、参加できる職員は一部になるため、職員一人ひとりの学習意欲を高め、質の向上につなげていく。

■保護者代表者（保護者会役員）による学校評価

○2019年 3月 16日 役員 26名

せんにしの丘学校評価アンケート

評価 A: そう思う B: ややそう思う C: あまり思わない D: 思わない

	アンケート内容	評価			
		A	B	C	D
1	園の教育目標や教育方針は、わかりやすい。	14	6	6	
2	園の教育目標が、子どもたちの中で育っている。	16	8	2	
3	園は、自然や社会とかかわりをもてるような体験を取り入れている。	20	6		
4	園は、年齢の異なる園児がふれあえるような環境構成をしている。	12	10	4	
5	園は、保護者の子育てについて面談や相談にのっている。	18	8		
6	保育教諭は、その場にふさわしい言葉遣いができている。	13	11	2	
7	保育教諭は、保護者との信頼関係ができている。	13	13		
8	園の施設の安全点検、衛生管理をしっかりと行っている。	14	11	1	
9	お子様は、園生活を楽しいと感じている。	18	8		
10	お子様は、園で十分に遊んでいる。	15	11		
11	保育の指導方法や内容に、工夫がされている。	18	6	2	
12	保育教諭は、一人ひとりの子どもをよく理解し、誠実に対応している。	10	15	1	
13	お子様は、家庭でこども園や先生、友だちの話をする。	17	7	1	1
14	保育教諭は、明るく熱心である。	17	9		
15	保育教諭の電話や受付対応は、適切である。	17	9		
16	園は、地震・火災不審者の侵入などに対して、子どもの身が守られるように努力している。	19	7		
17	保育教諭は、園でのお子様の様子などの連絡を適切に行っている。	12	14		
18	園は、ホームページ等で園の情報や活動を保護者や地域に分かりやすく伝えている。	12	13	1	
19	保育参観など保護者との連携は適切である。	10	15	1	
20	園全体での保育体制や行事は、適切におこなわれている。	16	10		

○アンケート 結果より

全ての項目において、AおよびBの評価をいただいたが、C、Dの評価がある項目もある。保育目標については、Cの項目が多く、保護者に教育保育目標や方針を提示する機会をつくる必要があると感じた。今回は、保護者会役員の皆様にアンケートをお願いしたが、今後自由記述の項目を設定したり、より多くの保護者にアンケートをお願いするなど、保護者の意見を聞く機会を増やしていきたい。

## ■ 園の概要

2007年2月11日完成、全国初の保育室が2階にある木造新園舎です。1階には0・1・2歳児クラスの保育室と広々とした吹き抜けの遊戯室、給食室があります。2階には3・4・5歳児クラスの保育室と子育て支援スペースがあります。2016年より千田保育所は認定こども園せんだの森になりました。園舎の西側には、乳幼児が裸足であそべる芝生スペースや砂場があり、様々な感触を楽しみながら過ごせます。また、窓の外を覗けば、田んぼが見え、稲の観察をしながら季節を感じることができます。子どもたちの季節の製作が飾られた0・1・2歳児クラスの保育室には、床と畳のスペースがあり、落ち着いた環境の中過ごせるようになっています。春には桜の木が満開に咲き、子どもたちの成長を見守ってくれています。また、季節に応じて野菜や花などの植物を子どもたちと一緒に育てています。子どもたちの大好きな遊具も沢山あり、いつも子どもたちのにぎやかな声が響き渡っています。

## ■ 本園における園評価のねらい

新制度移行に伴い、幼児組・乳児組が一体となって連携を図り試行錯誤しながら園行事・園運営につとめてきたがまだまだ「一体感」という意味では十分とは言えず、全てにおいて手探り状態で1年間が終了致しました。新しい制度で2年目を迎えた28年度はより一層の充実や発展を計り、外部の皆様の感想を求め、意見を出して頂く機会を設けたく、園評価を実施する事にしました。

### 2018年度学校評価

当園では2009年度より教職員のスキルアップを目的とした自己評価を行っている。実施したことにより、普段の保育に対して改めて自らを振り返ることができました。また、学校関係者評価を行うため評価委員会を設置し、教職員の自己評価報告書をもとに協議を行いました。その後、保護者会役員を対象とした「学校関係者アンケート」も実施致しました。アンケート結果を教職員全体で話し合うことにより、成果や課題などがみえたので、次年度の環境整備、資質向上に努めていきたいと思えます。

### 自己評価H30年8月1日実施

| 教職員が評価シートをもとに、自らを振り返りながら自己評価を行った。

## ■ 社会福祉法人の理念

### <ひとつの理念>

愛のあるところに生命がある。  
ひとりひとりが尊ばれ、一緒に育つ環境を目指し、福祉の原点を忘れない活動を行う。

## ■ 福祉の基本方針

### <活動の虹方針>

わたしたちは  
笑顔で子どもたちをむかえます。  
成長と安全を家庭と見守ります。  
個性を尊重して平等に接します。  
生きる力が育つ環境を創ります。  
円滑な就学に向け連携をします。  
親子が共に育つ支援を考えます。  
持てる力で地域に貢献をします。

## ■教育・保育目標

認定こども園せんだの森では、多様化する社会を生きていくための「生きる力の基礎」づくりの場とし、一人ひとりに寄り添った保育を行なう中で、知力・体力、そしてやさしい心を育んでいきたいと考えています。しなやかで逆境に負けない「生きる力」があつてこそ、その先に伸びる可能性があると思います。

### <星のような保育・教育の目標>生きる力の基礎

こども園は長い人生の最初の時間を過ごす場所ですが、一生を通じて最も成長する時期でもあります。人を思いやる心、失敗を恐れず最後までやり抜く意欲、工夫できるちから、そんな豊かな人生を送るために必要な「生きる力の基礎」を培います。遊びや生活経験を通して、いろんな5つの目標が星のように相互に影響を与えながら、生きる楽しさ 学ぶ楽しさを感じて大きくなります。

### <合言葉=愛ことば>

子どもたちはには、輝く未来と希望がもてるように、家庭や地域には、子育てが楽しいものであると感じられるように！

せんだの森の愛ことば <子どもの笑顔をたやさないように>

### <育ちの星☆目標>

- 希望を抱き、元気に生きる子ども  
愛し愛されて育つ  
夢をもち明るく生きる  
みんなと力をあわせて楽しく過ごす
- 自分からできる、前向きな子ども  
時間をみて自分からする  
身の回りのことができる  
できることによるこびを感じる
- しなやかなで、たくましい子ども  
よく遊び よく食べ よく休む  
身の安全を守れる  
柔軟に取り組み 最後までやり抜く
- 何事も興味を示す、考える子ども  
人の心や物の仕組みを知り 豊かに表現できる  
はなしを聞き 自分の考えを伝える  
自然や社会とともに生きる
- 素直な心をもつ、やさしい子ども  
よいと思うことを 勇気をもってする  
ありがとう ごめんなさいが素直に言える  
まちを愛し ひとを思いやれる

## ■具体的目標・計画

### 保育の特色

認定こども園せんだの森を大家族と考え、子どもたちがより安心し、家庭的な雰囲気の中で過ごしているような環境となるように日々心がけています。また、地域の方とのふれあいを多くもち、地域に密着した認定こども園せんだの森でありたいと思っています。たくさんの方との関わりの中で元気にあいさつができる子どもたちに育っています。

自然の多く残る千田町で、地域の方との菜園活動やたくさんの方の自然の散歩道の中で、四季を感じながら大きくなっています。

### ① 教育課程・指導

・年間指導計画、週案、月案、日案などの作成 などでの職員間の連携 ・ ・週案や月案などを作成することより、一日の保育の流れなどを明確にする事が出来る。担任の先生に代わり部屋に入ってくれる職員に対して申し送りなどを行い、その日の保育が運営できるように努めている。

## ② 保健管理について

・乳幼児に対する日常の健康観察 ・環境検査の実施感染症対策 ・感染症対策（手指消毒、除菌） ・園児の登園時や、保育室では常に目を配り、日常と変わりがないか観察。 ・毎年 薬剤師による水質検査・空気検査・飲料水・水飲み検査を行っている。

## ③食育活動の促進について

0・1・2 歳児は主に、様々な野菜や果物に触れ、食べ物の味・色・形・匂いなど五感を使った経験ができるようになっています。3・4・5 歳児は、様々な調理器具を使い、料理をする楽しさや、みんなで作って食べる喜びを感じながら行なっています。年間 12 ヶ月、入園から卒園までのべ 72 ヶ月の計画に基いて行っています。調理だけではなく、衛生や伝統文化、マナーも学んでいます。

## ④菜園・稲作活動について

認定こども園せんだの森周辺にある菜園で、地域の方と一緒に季節の野菜を育てています。主に3・4・5・歳児を中心にして活動を行ない、大きくなった野菜を収穫してみんなでクッキングをしたり、給食のメニューで美味しく頂いたりしています。5 歳児は、6 月に田植えを行ない、10 月に稲刈りの経験もします。

## ⑤書道指導について

月 2 回専門の講師として福山市内を中心に活躍されている玉葉会の中村文美先生他 2 名の先生に来ていただき、書道指導を受けています。日本の伝統文化に触れること、心を落ち着かせ人の話を聞く力を養うこと、物を大切に扱うことを目的とし取り組んでいます。道具の扱い方と姿勢に始まり、筆の持ち方やひらがなの書き順などを教えてもらいます。社会福祉法人昌和福祉会の題字を始め、保育所や子育て支援センターの題字も中村文美先生に作成をお願いしました。保育所には法人の理念である「愛は生命である」の言葉の他、「ひとり はみんなのために みんなはひとりのために」の揮毫もあります。

## ⑥ 安全管理について

・防災用品の購入 ・登降園時の送迎車や自転車の誘導 ・電子錠による施錠 ・災害時に向け、備蓄品を収納する防災倉庫、ワイヤレスアンプを購入。 ・定期的な AED の電池残量確認。 ・普段から、登降園時の送迎車や自転車の駐車・駐輪を促し安全管理に努めている。

### <防災・災害に関すること>

- 町内会との防災協定（せんにしの丘と横尾町内会 避難所の提供と物資の保管・訓練）
- 避難所の提供（せんだの森 平成 30 年 7 月豪雨）（3 施設）
- 大規模災害時に法人全体を通じて募金活動の推進（東日本大震災 フィリピン国タクロバン市（福山市友好都市）の台風災害 広島市土砂災害 平成 30 年 7 月豪雨 等）

### ○避難防犯安全指導について

毎月 2 回の避難防犯安全指導を行ない、火災や地震・不審者などを想定した避難訓練を実施しています。火災が起きたという避難ベルが鳴った時、子どもたちはどのようなことを気をつけながら避難するべきなのか、また、私たち職員が子どもを守る為にどのような判断を行ない行動をとらなければいけないのか反省・改善を繰り返しながら行なっています。

## ⑦ 組織運営について

・教職員への勤務要綱マニュアルの周知（年度当初） ・教職員への情報の取り扱い方針の周知（年度当初）  
・年度当初に教職員で勤務要綱マニュアルの読み合わせを行った。それと同時に個人情報の 取り扱い方や、守秘義務についても周知した。

## ⑧ 研修（資質向上の取組）

・資質向上のため全教員が園外研修へ参加  
・各保育士、園外研修への参加は積極的に行っているが、園内研修に関してはシフト制の勤務体制ということもあり、全職員が集まることが難しく、園内研修を行えていないというのが現状です。 今後は、シフトや時間等を工夫し園内研修を行い、全職員が同じ意識を持っていけるよう にしていきたいと思う。

## ⑨ 情報提供

・園だよりやクラスだよりなどを通して、保護者に情報を提供 ・HP を通して園内の情報を提供。  
・園だよりに記載してある、予定表により行事などを周知して頂いている。 ・HP の新着情報により、園の最



新情報を提供。

- ・セコムの配信メールを実施(2019年6月末より)

## ⑩ 保護者・地域住民との連携

### <地域貢献>

社会福祉法人昌和福祉会では、社会福祉法人としての公益性を考え、地域社会に必要とされる社会貢献活動を行っています。今後も利用者支援や地域連携につながる活動を継続していきます。

千田学区の行事に子どもが参加することにより、保護者も一緒に参加し、地域の行事を知る機会になっている。

- ・千田学区まちづくり推進委員の一員として活動している。

### <ボランティアや交流活動>

地域内の老人保健施設への毎月の訪問(せんだの森)

- 大型商業施設(フジグラン神辺店)で、毎月1回のおでかけ子育て相談会の実施
- 中学生職場体験(チャレンジWEEK)や社会福祉協議会のヤングボランティアの受け入れ
- 駅家商工会と共同でペットボトルキャップの回収やアルミ缶の回収

### <地域活動への参画>

- 千田小学校・千田学区の地域清掃活動に参加
- 千田・御幸学区主催行事に参加(3施設)  
(盆踊り大会 スポーツ祭 敬老会 文化祭 三世代交流 とんど祭り など)

### ○地域交流について

5歳児が月1度、地域の施設である「せんだの里」に伺い、おじいちゃんおばあちゃんとの交流を楽しみます。うたを歌ったり、ふれあいあそびをしたりします。

## ⑪ 地域子育て支援 センター

開所日：週5日(月～金)土・日もあり(不定期)

開所時間：9:00～14:00

利用組数：毎回8組～10組

内容：簡単クッキング、趣味講座、給食体験、の他お弁当持参もあり。

- ・就労の有無に関わらず、教育標準認定(1号認定)の方は、幼稚園型一時預かり保育を19:00まで行っている。
- ・地域の親子が自由に参加し、ふれあいの場、遊びの場、学びの場、情報発信の場をつくり交流を深めながら家庭への子育てを支援します。
- ・園の毎月の季節行事にも積極的に参加し、園児との交流もします。
- ・家庭(個々)への子育てを支援しています。
- ・フジグランやイトーヨーカドーでのおでかけ保育を月1回行っている。

## ⑫ 預かり保育

保護者の方のお仕事や病気、急な出来事でご家庭で保育ができない場合、一時的にお子様をお預かりして保育しています。

- ・就労の有無に関わらず、教育標準認定(1号認定)の方は、幼稚園型一時預かり保育を19:00まで行っている。

## ⑬ 教育環境整備点検について

- ・遊具などに危険箇所がないか、定期的に点検を行っている。 ・園庭や園舎など、危険箇所がないか定期的に点検を行っている。
- ・修繕箇所を発見した際は、園長まで直ちに報告。その後、必要とあれば業者を呼び早急に対応する。

## ■教育目標の達成、学年の年間目標に対する評価

### 保育・教育目標

～生きる力の基礎を培う教育・保育～

- 希望を持って元気に生きる子ども…
- 自分で自分のことができる子ども…
- たくましい精神と体をもつ子ども…
- 何事にも関心をもって考える子ども…
- やさしく美しい心をもつ子ども…

- ・ 幼児は朝のマラソンやラジオ体操・鉄棒を継続的に行うことにより、子ども達の体力が向上している。乳児はハイハイや伝い歩きなど、今後の身体運動の基礎となる動きが多いので、充分に楽しんで行えるように配慮したいと思う。
- ・ 家庭的保育かつ 集団生活における教育の中で 一人一人がいきいきとした 生活を送る  
新入園児の保育認定の子ども達に対し、体力面を考慮し慣れるまでは、ゆったりとした時間や休息できる場所を設けた。2 学期になると体力もつき、園生活にも慣れ活動の時間を増やすことが出来た。子ども一人ひとりの思いや気持ちに気付き受け止め、その都度 1 対 1 で関わる事で無理なく生活を送ることが出来た。 家族との連携を大切にしながら、充実感や満足感を味わえるような保育を行えた。
- ・ 心身共に健康で明るいくいきいきと ・がまん強く、最後まで頑張りのきく逞しい子ども ・優しく素直で、思いやりのある子ども ・自分からあいさつができる子ども ・素直にごめんなさいと言える子ども 基本的な生活リズムを繰り返し、たくさん話しかけることで、経験や体験を繰り返し、場面に応じた挨拶や返事が出来るようになった。子どもたちの思いや気持ちに寄り添い理解して行く事で、情緒 が安定し心の優しい子になると思う。子どもの内面を理解しながら保育を行っていききたい。

## ■2018 年度の… 達成状況・評価・反省

### 学年の年間目標

#### めだか組(0 歳児)

- ・ 愛情豊かな保育者との信頼関係を築き、安心して自己主張したりする。
- ・ 基本的な生活習慣を身につけ、気持ちの自己コントロールができるようになってゆく。
- ・ 様々な物に好奇心や関心をもち自分の思いを表現する。  
一人ひとりの発達に応じた関わりをすることで、身体的発達もしっかりし、自己主張もしっかり出来ていた。あそびや生活習慣、ことばにおいて自分でやってみたいという自己主張が強くなり、よく見て聞いて、保育者のまねをしようとしている。自分もやってみたい！の気持ちを大切にしていきたい。ルールや約束事を生活に取り入れていく事で、気持ちの切り替えもスムーズになり、達成感や満足感を味わい次の活動にも進んで行えるようになった。

#### ひよこ組(1 歳児)

- ・ 集団生活に慣れ、友だちと関わり遊べるようになる。
- ・ 遊び生活を通して自分の思いを自分なりの言葉で表現したり、身振り手振りで伝えたりする。  
言葉の理解が貧しい子に基本的な生活習慣が身につくまでに 3 期までかかったが、ほとんどの子どもが達成することができた。言葉でのトラブルや玩具の取り合いなどで引っかきや噛みつきなどもあったが、トラブルから仲良くなったり、遠慮せず関わられるようになった。ルールのある遊びを通して、様々な子どもと関わり、やり取りをしながら遊ぶことができ、友だちの輪が広がった。また、言葉でのやり取りが増えた。

#### こあら組(2 歳児)

- ・ 自分の思いを言葉にして伝えられると共に相手の気持ちも考えられる思いやりの気持ちをもつ。友だちとごっこ遊びやなりきり遊びを行って言葉のやりとりをする姿が見られている。その際、トラブルもあり玩具の取り合いもあるのでその都度声をかけ仲立ちをしている。  
・ 集団生活や遊びのルールを守りながら活発に遊び、仲間意識を育てる。個人差はあるものの、自己主張はだいぶ出来るようになってきた。しかし、自分の思いを我慢して譲る等は課題が残る。

#### うさぎ組(3 歳児)

- ・ 自分の思いを言葉にして伝えられると共に相手の気持ちも考えられる 思いやりの気持ちをもつ。
- ・ 集団生活や遊びのルールを守りながら活発に遊び、仲間意識を育てる。
- ・ 個人差はあるが、自己主張が出来るようになってきた。自分の思いを我慢して譲る等は課題が残る。
- ・ 友だちと関わり、身の回りの整理整頓や係りの活動など実際に自分たちで進んで行うことができています。
- ・ 自分だけでなく周りの友だちや保育者の存在も見えるようになり、友だちを誘って遊ぶことや、特定の仲の

良い友だちと継続して遊び込を行うなど、一人で遊ぶ姿から、遊びの内容や遊び方も発展してきている。

#### りす組(4歳児)

- ・安全な環境をつくり、一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし安心して園生活が送れるようにする。
- ・自分でしようとする気持ちを持ち、生活習慣を身につける。
- ・保育者や友だちとの関わりを深め、友だちの気持ちにも気付き、集団で行動できるようになる。

自分の想いや主張が強くなり、友だちとのトラブルの際にはなかなか相手の意見を聞き入れられない子が多くいた。相手の気持ちに気づき、自分だったらどうなのかを考えられるようにすることで少しずつ友だちの気持ちに気づけるようになっていった。衝動的になり、相手に手が出たり、気持ちを抑えられずに涙が出たり、という姿がみられる子もまだ残っている。

#### くま組(5歳児)

- ・就学に向けての生活リズムを整え、身の回りのことを自分でできるようになる。
- ・自分の気持ちを言葉で伝え、相手の気持ちを受け止め、助け合いながら過ごす仲間をつくる。
- ・自分で考え行動する力を身につける。

クラスでの目標を達成することで友だちの気持ちを考えながら行動することができるようになっていき、思いやりの気持ちを育てることができた。就学に向けての意欲も高まり、読み書きにも興味を示すようになったり、活動にメリハリができて集中する時間が増えてきた。一方で、時間をみて行動したり、周りの状況に応じた行動をすることが難しい子もいた。小学校との連携を通して、課題のある子どもの配慮を伝えていき、無理なく就学していけるようにしていった。

#### ■園務分掌から

評価 A…達成された B…おおむね達成された C…要改善

##### ○行事(A)

- ・0歳児の運動会・発表会を、保育参加日でゆったり過ごし触れ合えたのはよかった。場所も遊戯室でゆったり触れ合えることができた。
- ・運動会は観客席人数も増え園庭内ギリギリでみることで、観客スペースのゆとりはとれなかった。晴天の中で運動会開催できたことはよかった。3未の発表会が1・2歳児のみになったことで、ゆとりがあり、駐車場の混雑もなくよかった。
- ・秋祭りはながれも良くわかって混雑することなく親子の触れ合いが十分に楽しむことができた。遊びコーナーも充実していた。(A)2月 3歳以上児は2月で感染症が増える時期でもあったが欠席人数も少ない中開催することができた。特に3歳以上の発表会は保護者からのうれしいコメントもいただき職員共に喜んだ。
- ・卒園式はゆったり式もながれ混雑することなく一人ひとりに卒園証書を渡すことができた。何よりも一人一人へのコメント証書がせんだの森オリジナルでよかった。

##### ○食育(A)

- ・食育の年間指導計画にそって、月1回の食育指導で、その月の目標にあわせて子どもたちに指導している。
- ・衛生面に配慮しながら、毎月1回クラスごとに実施している。
- ・クッキング場面はクラス前に写真を掲示し、様子を伝えている。保護者からはとても喜ばれている。

##### ○誕生日会(A)

- ・毎月ごとの担当を決め、計画的に取り組んでいる。
- ・子どもたちの年に1度の特別な一日を、大切にしながら取り組めた。
- ・職員で練習も重ね誕生日を全職員でお祝いすることができた。

##### ○避難訓練(A)

- ・毎月の訓練を実施することで避難実施訓練は上手に避難ができています。また、津波や浸水を想定した避難訓練も実施し、実際に2階に避難実施した。いろんな想定やいろんな場面での避難訓練を出来る限り行う
- ・いざという時に職員が的確に避難誘導ができるように、職員の役割の意識が大切である。リーダーの職員がいなくても判断し誘導ができるよう、毎回見直ししながら職員間で反省し、意識統一をしていく。

##### ○安全指導・安全点検(B)

- ・月1回の安全点検を、各クラスで行っている。子どもたちの安全を第一に考え、危険な個所に気づける意識が大切である。いつ壊れたのかわからないということも多いため、職員一人ひとりの意識を高めていく。
- ・安全指導は、遊具の使い方や園庭で遊ぶ時のルールなどを職員間で確認し、だれでも同じように指導できる

ようにすることが必要である。

#### ○水遊び・夏季プール (A)

- ・プールの際は必ず監視が付く状態で実施した。
- ・プールでの約束を知らせ、守りながら事故なく楽しく過ごすことができた。
- ・年々暑さが厳しくなっているので、熱中症に気を付け、安全を第一に考えてプールの回数を変え、実施するかどうかの判断を行うことも必要。

#### ○菜園活動 (A)

- ・千田農園で千田学区のおじいちゃんたちと一緒に体験・経験し、苗植えにはじまり収穫を楽しんでいる。
- ・玉ネギやじゃがいも、さつまいもなど、季節ごとに自分たちで収穫し、それを給食で味わうと言う経験が、子どもたちの食事への意欲につながっている。
- ・野菜嫌いの子も自分で栽培した野菜なので食べられた。今後も積極的に探して参加を増やしたい。

#### ○園外研修 (A)

- ・キャリアアップ研修を含め、様々な分野の研修を全職員に案内し、興味のある研修にすすんで参加するよう全職員に啓発している。外部研修に行くのは限られてくるため、学んできたことを園内で共有したり、自身が実践することで共有することを大切にする。全職員が研修に参加できるよう計画する。

#### ○懇談会・面談 (B)

- ・年に3回保育参加日前に懇談会を実施し園と家庭での様子を伝え合う場となり共通理解ができた。
- ・年間の中で取り組んでいくことが必要。

#### ○職員のコミュニケーション (A)

- ・月1回の会議や毎日の昼礼の際、各クラスの個の取り組みや保護者の状況、怪我などのインシデント事例などを報告し合い、情報共有をしている。
- ・週案を一覧に記入することで、他のクラスの保育内容を知り、園庭や保育室の使い方をクラス同士で調整するようにしている。
- ・自分のクラスだけでなく全体のことを考えていけるよう、他のクラスへの気配りを大切にしていきたい。

#### ○保育内容 (B)

- ・各クラスで、子どもの姿や季節にあわせて、計画的に様々な活動を計画し楽しんでいる。部屋や園庭も保育計画に合わせてクラス同士で話し合い調整するようにしている。
- ・3歳以上のクラスは、行事への取り組みに多くの時間を要す状況があり、担任も忙しいイメージがある。
- ・どのクラスも、子どもが主体的に遊びに取り組める環境を大切にしたい保育をすすめていけるよう工夫する。そのためにも、園内研修をしていく必要がある。

#### ○職員会議など (B) (A)

- ・月に1回の所内研修は、リーダーが出席するような形になっているが、可能な限り短時間でもいろんな職員が参加するようにし、園内のことにみんなが共通意識をもっていけるようにしていきたい。
- ・勤務形態が多様で、常に保育があるため、全員が集まることは難しいが、必要に応じて、パート会・臨時会議をもったり、時間を分けて全員が参加できるようにするなど、これからも工夫しながら職員の意識統一を図っていく。
- ・代表者の出席なので、会議の内容を伝達することで職員間での共有ができるよう、伝達方法を見直していく。
- ・会議に出た先生が、重要なことなどを学年の先生に申し送りをする

#### ○施設・整備 (A)

- ・今年度は修繕工事などは予定がなかったが、整備をする際は安全保育に努め保護者の協力・理解を求められるよう努力する。

#### ○園内研修 (B)

- ・全員参加は難しいが、月に全職員が対象の研修をもつようにしている。
- ・園外研修に行くことも限られているため、園に講師を招いたり、研修で受けたことを園内で研修する方法で、園内研修を設定していく。それでも、参加できる職員は一部になるため、職員一人ひとりの学習意欲を高め、質の向上につなげていく。

以上

全教職員への周知・園内掲示・HP上への公開を行うものとする

■保護者代表者（保護者会役員）による学校評価

2019.3.9

せんだの森

評価 A：そう思う B：ややそう思う C：あまり思わない D：思わない

	アンケート内容	評価			
		A	B	C	D
1	園の教育目標や教育方針は、わかりやすい。	19	5		
2	園の教育目標が、子どもたちの中で育っている。	16	7	1	
3	園は、自然や社会とかかわりをもてるような体験を取り入れている。	21	2	1	
4	園は、年齢の異なる園児がふれあえるような環境構成をしている。	23	1		
5	園は、保護者の子育てについて面談や相談にのっている。	24			
6	保育教諭は、その場にふさわしい言葉遣いができている。	18	6		
7	保育教諭は、保護者との信頼関係ができている。	19	5		
8	園の施設の安全点検、衛生管理をしっかりと行っている。	22	2		
9	お子様は、園生活を楽しいと感じている。	23	1		
10	お子様は、園で十分に遊んでいる。	23	1		
11	保育の指導方法や内容に、工夫がされている。	20	4		
12	保育教諭は、一人ひとりの子どもをよく理解し、誠実に対応している。	19	4	1	
13	お子様は、家庭でこども園や先生、友だちの話をする。	21	1	2	
14	保育教諭は、明るく熱心である。	20	4		
15	保育教諭の電話や受付対応は、適切である。	20	4		
16	園は地震・火災不審者の侵入などに対して、子どもの身が守られるように努力している。	20	4		
17	保育教諭は、園でのお子様の様子や連絡事項を適切におこなっている。	21	2	1	
18	園は、ホームページ等で園の情報や活動を保護者や地域に分かりやすく伝えている。	16	6	2	
19	保育参観など保護者との連携は適切である。	21	3		
20	園全体での保育体制や行事は、適切におこなわれている。	21	3		

1. 日時 2019年3月9日(土) 13:30～2:30 参加者 園長、評価委員(保護者会役員より計26名)

学校関係者評価2019年3月8日開催

(学校関係者評価報告)

学校評価アンケートH31年3月9日-3月12日実施

学校関係者委員会の協議の結果をふまえ、アンケート用紙を作成し保護者会役員を対象にアンケートを実施した。配布数：26 回答数：24

集計 保護者会長 藤井 理恵

○アンケート 結果より

全ての項目において、AおよびBの評価をいただいたが、Cの評価がある項目もある。園での様子が伝わるよう工夫が必要だと感じる。保護者に教育保育目標や方針を提示する機会をつくる必要があると感じた。今回は、保護者会役員の皆様にアンケートをお願いしたが、今後自由記述の項目を設定したり、より多くの全保護者にアンケートをお願いするなど、保護者の意見を聞く機会を増やしていきたい。